



津久戸小のきらり2

副校長 和歌 恭子

梅雨の晴れ間に校庭のプールから子供たちの歓声が聞こえてきます。西側では、4年生が植えた「内藤とうがらし」と2年生が植えた野菜が、北側では、1年生のアサガオが、すくすくと育っています。

さて、この時期のもう一つの津久戸小の風物詩と言えは？

それが今回の「津久戸小のきらり」です。

下の写真をご覧ください。これは、講堂での阿波踊りの練習の様子です。6年生が1年生とペアを組んで、踊りを教えているところです。



「立場が人をつくる」とよく言われますが、この1学期で目覚ましく成長するのが、6年生です。1年生のお世話をし、津久戸小のリーダーとして行動するうちに、本物になっていきます。

ということで、津久戸小の二つ目のきらりは「6年生」。阿波踊りを教える6年生の姿は、その象徴と言えるのではないのでしょうか。

神楽坂の子ども阿波踊りが始まったのが1992年。津久戸小の児童も「つくど連」としてこれまで多くの児童が参加してきました。今年はギネスにもチャレンジするという事で、近隣校と「子ども連」で記録達成を目指します。先頭は6年生。きらめくその成長ぶりをご覧ください。

6月8日から10日まで河口湖移動教室を実施しました。

自然豊かな環境で、森林探索やカヤックなど普段なかなかできない貴重な体験ができました。ホテルでは、食事や入浴、就寝準備など、仲間と協力し合って楽しく過ごしました。最終日には、遊園地で友達と一緒にたくさんの思い出を作りました。様々な経験を通して、子供たちは逞しく成長しました。

“自分だけでなく、周りのことを考えて行動”この移動教室中、テーマにしてきました。今後の学校生活、そして社会に出たときに、ここでの学びを生かして欲しいと願っています。



ICT 活用について

情報担当

デジタルシティズンシップという言葉聞いたことはありますか。今教育界では、「デジタル社会の善き市民」という意味でこの言葉が使われています。単にスマホやタブレットを禁止・制限するのではなく、どうすれば安全かつ倫理的に使いこなせるかを子供に指導することを指します。残り二週間で夏休みに入りますが、長い夏休みだからこそ、ただ遠ざけるのではなく正しい付き合い方を身に付けるチャンスにしていきたいと思います。

ただし、学校でも指導していることですが、特に「知らない人とは連絡を取らない」「個人情報（名前や写真）を載せない」「相手の嫌がることを書きこまない」といった約束については、ご家庭でも話題にしていだけますようお願いいたします。

